

Learning for All

2020-2021



 子どもの貧困に、本質的解決を。
Learning for All

特定非営利活動法人 Learning for All

〒160-0022 東京都新宿区新宿五丁目1番1号 ロイヤルマンションビル404号室

Tel : 03-5357-7131 Mail : info@learningforall.or.jp

Mission

落ちこぼれなんかいない。
大人が見過ごしているだけだ。

子どもを見捨てない。誰一人として、絶対に。

Learning for Allの「All」には、そんな決意が込められています。

貧困、虐待、発達障害、いじめ、社会的マイノリティなど、

日本に数多くいる、生きづらさを抱える子どもたち。

彼らが勉強についていけなくなったり、不登校になったり、

将来を諦めてしまうのは、本人や家庭だけの責任でしょうか。

私たちはそうではなく、私たち大人の責任でもある、と思うのです。

社会が断ち切らなければ、貧困は再生産される。

だからこそ、対症療法ではなく、本質的解決を。

すべての子どもたちが自分の可能性に気づき、最大限に力を発揮できる。

そんな社会を実現させるために、私たちは走りつづけます。



子どもの貧困に、 本質的解決を。



Values

Children First

「子ども主語」で考えつづける

Change for All

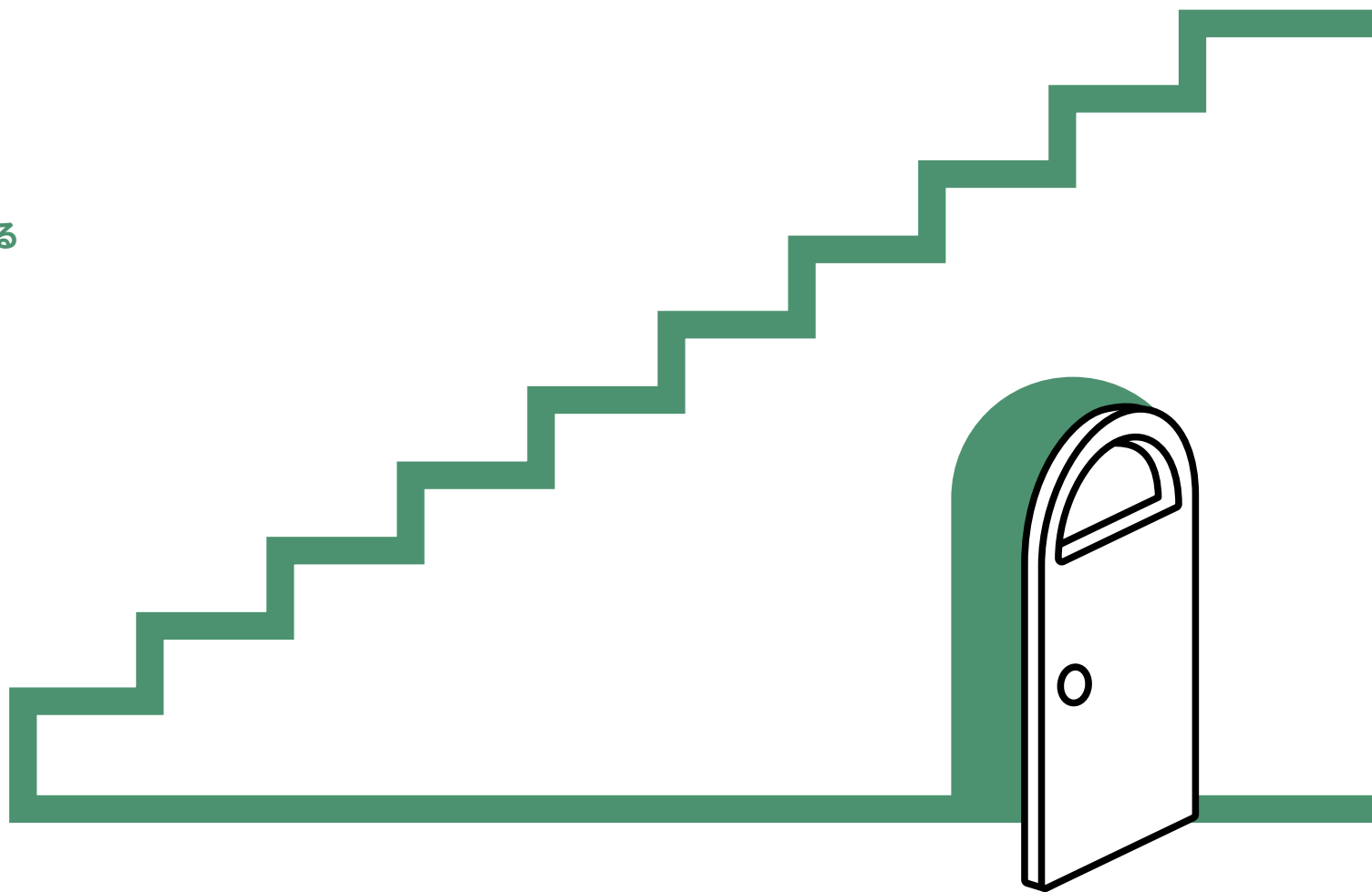
本質的解決のために変わりつづける

Inspire for All

関わる人ぜんぶに学びの機会をつくる

Collaborate for All

つながって、いっしょに創る



ケンタくんは母子家庭で暮らす小学校1年生。

お母さんはアルバイトが忙しくケンタくんに向き合う
時間が取れず、精神的にも金銭的にも余裕がありません。

そんな影響からかケンタくんは、
学校やLFAが運営する居場所拠点で
毎日のように周囲の子どもたちと
取っ組み合いの喧嘩や言い合いを起こしています。

家で満足に食事ができていないのか、
居場所支援での夕食時には、食事を手づかみで
口いっぱい詰めて込んで頬張るケンタくん。
学力も定着しておらず、小学1年生の秋に出会った頃は
ひらがなも読めない状態でした。



現在中学校3年生のトモコさんは約5年間、
不登校の状態が続いています。

学校に馴染めなかったことから、
大勢の人がいる場所に行くことに不安を感じ、
学校や塾、フリースクールなども継続して通えていません。

LFAが運営をする寺子屋も欠席が多く、
自分の感情を上手く言葉で表現できないストレスから、
自分の体を傷つけてしまうこともあります。

お母さんも寺子屋を休みがちなトモコさんに、
「どうせすぐやめるんでしょ。」と後ろ向きな言葉をかけます。

高校受験を控える中で、周りに信頼できる大人がいないトモコさん。
書ける漢字は小学校3年生のレベルで止まっているなど、
勉強も他の子と比べて大きく遅れており、
このままでは高校進学は難しい状況です。



子どもたちの現状

今、日本の子どもの7人に1人が貧困状態にあると言われています。

「子どもの貧困」は世代を超えて繰り返し、
子どもたちの努力だけで抜け出すことは非常に困難です。

この問題は、これからの日本社会の発展にも影響を与える
大きな問題です。他人事として見過ごさず、
社会全体で解決に取り組まなければなりません。



子どもの貧困について

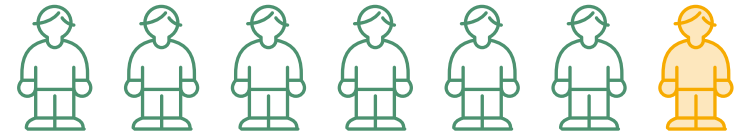
日本における「子どもの貧困」って？

「子どもの貧困」という言葉を知っていても、その実情を知っている人はまだ多くはありません。その主な理由としては、「貧困」と一言で言っても、この言葉が使われるときには2つのパターンがあるからです。日本で「子どもの貧困」が語られるときには多くの場合、「**相対的貧困**」のことを指しています。

	絶対的貧困	相対的貧困
定義	人間としての最低限の生存条件を欠くような状態	その国の中の生活水準に対して、適正な水準での生活（普通の生活）を送ることが困難な状態
多い国	アフリカやアジアの途上国	日本などの先進国
状態	- 食べるものがない - 住む場所にも困っている	- 音楽やスポーツなどの習い事に通う機会がない - 家計のためにアルバイトをする必要がある - 大学に進みたくても、経済的理由で就職する

貧困状態にある子どもたちの数は？

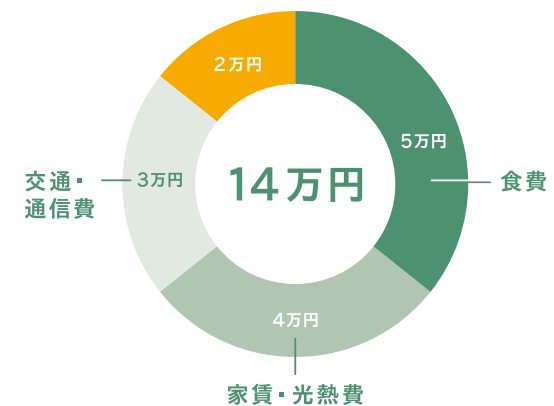
日本の子どもの7人に1人が「貧困」状態にあります。
また、ひとり親世帯に限ると、2人に1人が貧困状態です。



「相対的貧困」状態にある家庭の暮らしとは？

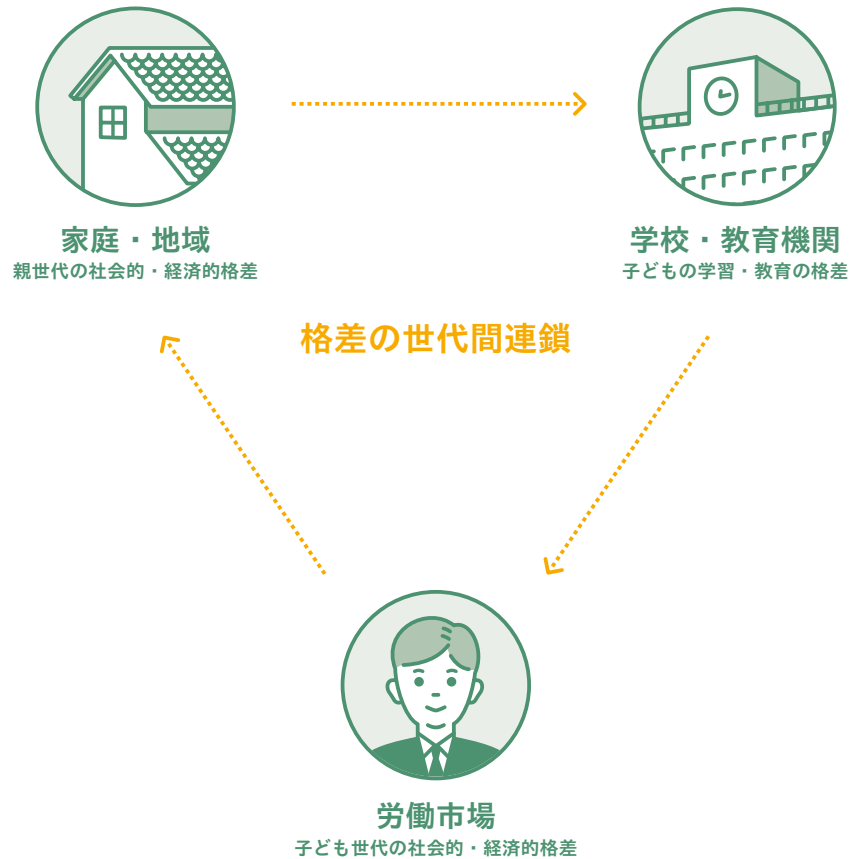
相対的貧困は「年間の手取りの中央値の半分以下で暮らしている状態」と定義されています。これは例えば親子2人世帯（ひとり親世帯）の場合、年間約170万円、つまり1か月約14万円で暮らしている状態です。

総務省の統計によれば、母子家庭の家計における支出平均は食費が5万円、家賃・光熱費が4万円、交通・通信費が3万円なので、相場で決まっている費用を引くと2万円しか手元に残りません。ここから教養娯楽費、交際費、生活用品の出費を考えると、この生活の中で「当たり前」に生きることの難しさがわかります。



「子どもの貧困」を放置するとどうなるの？

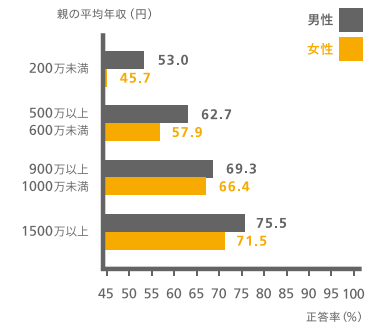
貧困世帯の子どもは学校外での教育にかけられる費用が少なく、様々な経験や学習の機会が制限されています。結果として、その子どもの家庭が再び貧困に陥る可能性が高くなります。



経済格差と教育格差

家庭の経済的環境と子どもの学力は相関関係にあることが分かっています。これは、他の子どもたちのように塾に通わせる余裕がないことや、落ち着いて勉強できる家庭環境がないこと、そしてより低年齢のうちに家庭で培われる生活習慣や基礎的な学習力の不足などの影響が示唆されています。

出典 | 『親の平均年収と学力テストの平均正答率の相関(教育過程の明示)』
(文部科学省がおこなった平成25年度全国学力・学習状況調査)



進学格差

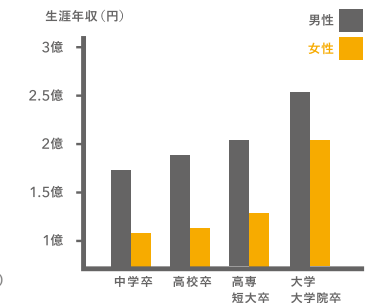
学力の格差は、進学面での格差にもつながっています。全世帯の大学等進学率は73.2%であるのに対し、生活保護世帯に限った大学等進学率は33.1%にとどまっています。

(出所) 生活保護世帯の子は厚労省 社会・援護局保護課調べ(平成28年4月1日)、全世帯については平成28年学校基本調査 ※大学等には専修学校等を含みます。

将来の収入格差

高卒者の月額賃金は、大学・大学院卒の6割程度。最終学歴によって、最大で男性は約8000万、女性は約1億の生涯年収の差があります。進学格差が将来の収入格差にもつながるのです。

出典 | 『学歴別生涯年収の比較』
(「ユースフル労働統計—労働統計加工指標集—2012」より参照)





小学2年生
Mくん

居場所支援の現場に通い始めた当初のMくんは、よく同じ服を着ていました。話を聞くと入浴やシャワーの習慣が身についておらず、寝る時も昼間と同じ格好で寝ていたようです。また、歯磨きの習慣もなかったため虫歯だらけでした。そうしたことを学校でからかわれたため、Mくんははじめが原因で不登校気味。兄弟も全員不登校状態だったため、学校に行くことの意味を見いだせずにいました。



中学3年生
Hさん

自身の複雑な家庭環境が原因でいじめられ、小学校の時から不登校気味。中学校は入学2日で完全不登校に。学習支援に通い始めた時の学力は小学校3年生レベルで、大きな学習遅延を抱えていました。高校に進学したくても、経済状況や学校の出席率の低さからどのようにすればよいかわからず、相談できる人もいなかったため、将来への不安を一人で抱えていました。

相対的貧困状態にある子どもたちが抱えている困難は、経済的な基盤がないことだけではありません。経済的な基盤がないことに加えて、「つながり」「学びの環境」「育まれる環境」をも喪失しやすくなる傾向があります。



つながりの喪失

貧困・不登校・虐待などの様々な事情から、家庭や学校の中で安心できる居場所がない。不安なことやしんどいことを相談する相手もおらず、自分を支えてくれる友人や、NPO等の支援先とのつながりもないため、孤立してしまっている。

学びの環境の喪失

学校以外に学習する環境がなく、自分に適したペースと方法で学びを進めることができない。その結果、学習におけるつまずきを重ね、大きな学習の遅れを抱えてしまっている。さらに、自信も失い、自分の可能性を信じて将来の進路や夢を描くことができない状態に置かれてしまっている。

育まれる環境の喪失

虐待を受けたり、不適切な養育環境に置かれたりしている。そのため、心地よい環境で適切なケアを受ける、基本的な生活習慣を身につける、めいっぱい遊ぶといった「当たり前」の機会が得られていない。こうした状況では心身を成長させることができず、学習以前の段階で様々な課題を抱えてしまっている。

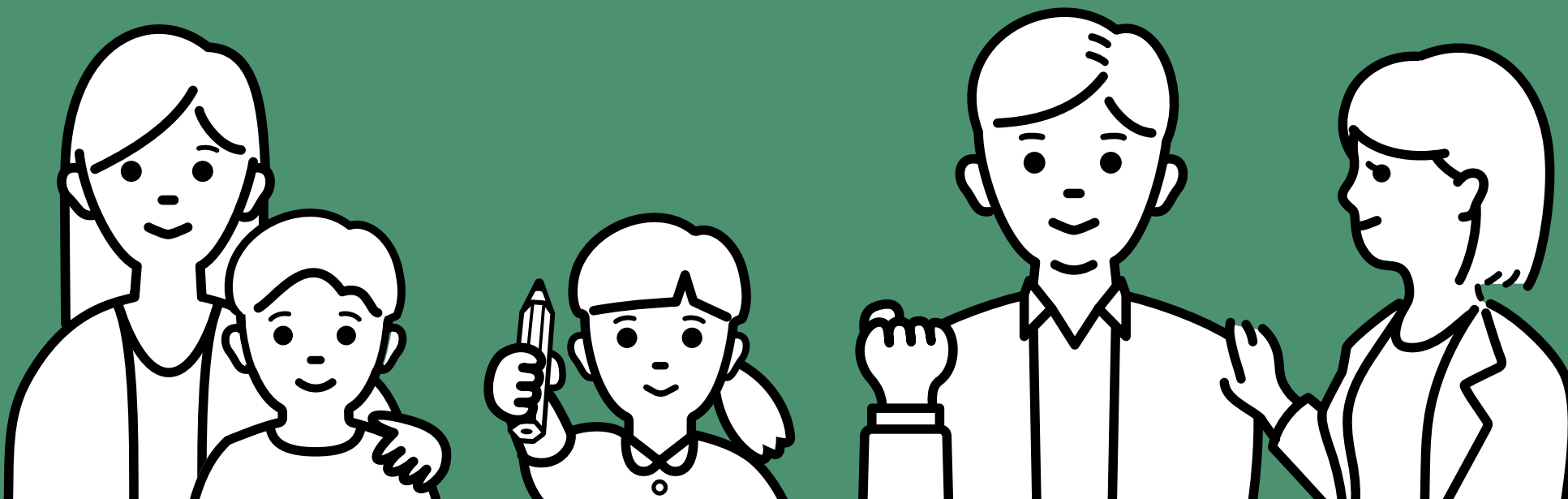
相対的貧困状態にある子どもたちが抱えている問題は、非常に複雑で根深く、決して彼らが望んだ状態ではありません。

他の子どもたちよりも圧倒的に「努力しづらい環境」に置かれているのです。

活動紹介

私たちは、困難を抱えた子どもたちへの包括的支援、
人材育成、普及啓発・アドボカシーの3本柱で、
子どもの貧困の本質的解決に取り組んでいます。

日々、目の前の子ども一人ひとりに質の高い支援を届ける
現場をつくりながら、社会全体で子どもたちの未来を
応援できるような仕組みづくりをしています。



LFAの活動

6歳～18歳の子どもの状況に合わせ、幅広い支援内容を柔軟に展開しております。



居場所支援（学童）

【対象学年】 小学校1年～6年

【概要】 生活習慣の学び直しや遊び・学習サポートとして週5日運営。保護者支援も同時に実施。



居場所支援（中高生）

【対象学年】 中学校1年～高校3年

【概要】 不登校や家庭・学校に居場所がない子どもを対象に週4日運営。



子ども食堂

【対象学年】 小学校1年～高校3年

【概要】 週5日の登録制子ども食堂。月2回は地域の大人・子どもも含めた食堂を開催。



学校内学習支援

【対象学年】 小学校4年～中学校3年

【概要】 学習の遅れ等で個別のサポートが必要な子どもを対象に、学校の中で放課後や休日に1対2～3の個別授業を実施。

※学校教員と相談の上、実施内容を決定



公民館学習支援

【対象学年】 小学校4年～高校3年

【概要】 不登校・日本語に難等、学校での個別対応が難しい子を対象に週2回の1対1の個別指導を実施。



保護者の個別支援／相談支援

【概要】 日々の悩み相談だけでなく制度紹介・窓口への繋ぎ等も対応。繋がり作りとして保護者会等も実施。

1 困難を抱えた子どもたちへの包括的支援

私たちは、すべての子どもたちが夢や幸せに向かって自由に、そしてしなやかに、自分の人生を切り拓くことができる社会を目指しています。

そのためには、地域に ①つながり ②学びの環境 ③育まれる環境を整備し、困難を抱えた子どもたちを適切な支援につなげていくことが必要です。私たちはそのような仕組みのある理想的な社会を目指して、包括的支援モデルを確立し、それを全国に展開していきます。



つながり

- ソーシャルワーカーや学校など、地域の方々と協力して子どもと出会い、「つながる」
- 子ども食堂など、地域に開かれた場を通じて子どもと出会い、「つながる」
- その結果、困難な子どもを支える「地域の大人たちのネットワーク」を構築する

学びの環境

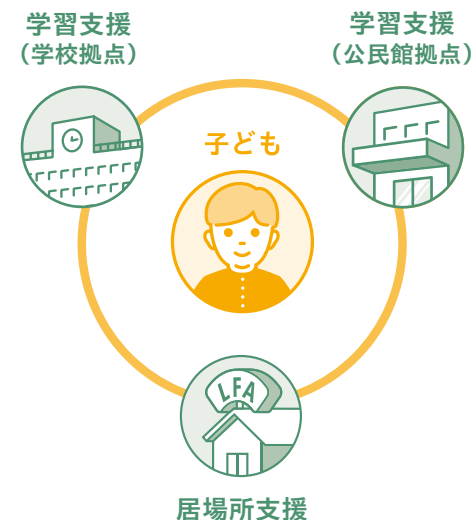
- 個々のつまずきや学習スタイルに応じた「学習支援」を提供する

育まれる環境

- 正しい生活習慣や遊び経験を得られる「居場所支援」を提供する
- 保護者の声を尊重し、困難に応じて適切な制度・資源につなげる「保護者支援」を提供する

困難を抱えた子どもたちへの包括的支援モデル

つながり、学びの環境、育まれる環境を整備するため、地域の中に複数の学習支援拠点と居場所支援拠点を設け、地域の多様なステークホルダーと連携・協力しながら、子どもたちとつながり、その子にあったサポートをしています。



学習支援事業



地域や学校と協力して、公民館や空き教室に無償の「学習支援拠点」を設置しています。質の高さと継続性に徹底的にこだわり、厳しい研修を受けた大学生教師たちが、学習遅滞を抱えた子どもたちに寄り添って勉強を教えます。

居場所支援事業

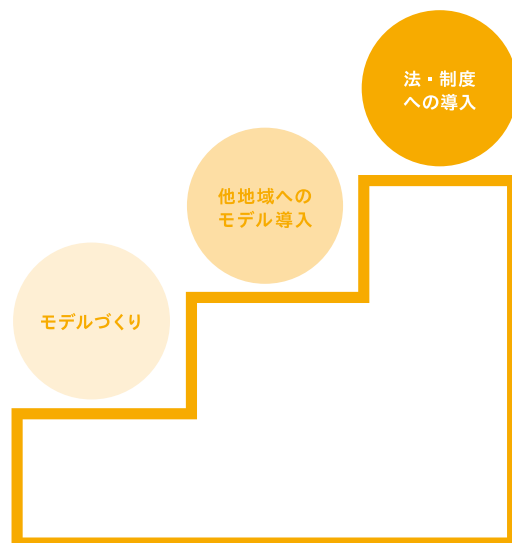


安心して過ごせる居場所として、学童保育のような仕組みで子どもたちを受け入れ、「落ち着いてみんなとの生活を楽しむ環境」「自分のペースで学びを深める力」「遊びと体験・世界を広げる人との出会い」を提供することで、子どもたちの自立する力を養っています。

包括的支援モデル 全国展開への道筋

現在、異なる特徴を持つ複数の地域での現場運営を通じ、包括的支援モデルの構築を行っています。また、同時に他地域への導入を見据え、導入サポートコンテンツ・フォロー体制の整備をしています。

2021年までにはモデルづくりを完了させ、他地域への導入を推進していきます。私たちは最終的に、包括的支援モデルが国の制度として導入されることを目指しています。



2 人材育成

LFAは社会課題を解決するアクションを取るチェンジメーカーを育成・輩出しています。

LFAの卒業生たちは卒業後も、すべての子どもたちが輝ける理想的な社会を目指して、それぞれのフィールドで活躍しています。



3 普及啓発・アドボカシー

支援の必要な子どもたちが決して見過ごされない社会の実現を目指しています。

そのために、現場で培った経験に基づいて、積極的な政策提言を行っています。また、子どもたちの直面している困難を、メディアを通じて広く世の中に訴えています。

学習支援事業

地域や学校と協力して、公民館や空き教室に無償の「学習支援拠点」を設置しています。質の高さと継続性に徹底的にこだわり、厳しい研修を受けた大学生教師たちが、学習遅滞を抱えた子どもたちに寄り添って勉強を教えます。

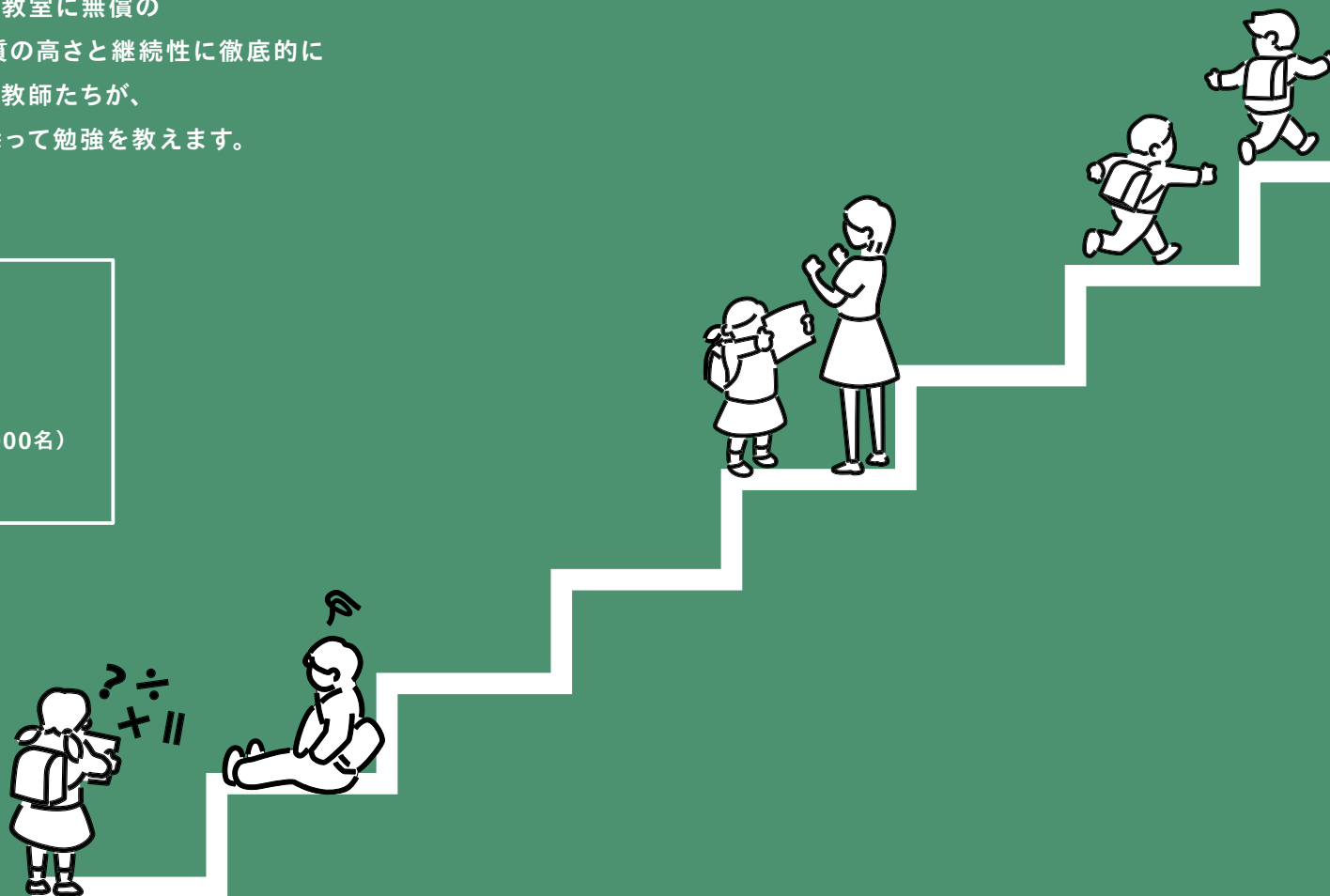
学習支援事業案内

提供日数 | 週1回～2回

提供時間 | 14時～17時

対象生徒 | 小4～高3（年間のべ約1,000名）

支援内容 | 学習支援・生活支援



学習支援事業とは

私たちは行政と連携・協力し、質の高い学習支援プログラムを無償提供することで、困難を抱える子どもたちの可能性を広げる活動をしています。

その内容は、自治体・教育委員会などと協力して「学習支援拠点」を設置し、厳しい選考と研修を受けた優秀な大学生教師たちが主体となって、放課後や土日に生徒を直接指導する、というものです。

生徒一人ひとりの学習進度や家庭環境に合わせ、彼らが進学を諦めなくていいように、時には日々の生活習慣にまで踏み込んだ指導を行っています。

Learning for Allの学習支援の特徴

1. 本当に学習支援を必要とする子どもたちへ

生活保護世帯の子どもたちや、その他学習困難な状況にある子どもたちにアクセスするため、公募ではなく、自治体のケースワーカーや教育委員会と連携・協力して生徒を紹介してもらっています。

2. 学習の「質」へのこだわり

大学生教師はLFA独自開発の量・質ともに充実した研修（約50時間以上）を必須受講。フィードバックにあたるスタッフを配置し、指導の振り返りを徹底することにより常に授業のやり方や教材を改善。教師1人に対して生徒1～3人の、一人ひとりに寄り添った個別指導を展開しています。

3. 確実に成果を出す

生徒が確実に学習で成果を出せるよう、プログラム中は同じ教師と生徒たちで授業を行い、3カ月を区切りとした継続的なプログラムを提供しています。

※夏期は短期集中型プログラム（5～7日間）

信頼できる教師と安心できる学習環境は、生徒の確実な学習成果に繋がります。

参加まで

子ども

公民館拠点

生活保護世帯を担当する行政の紹介で、公民館などに設置されているLFAの教室に参加する。

学校拠点

学校からの紹介で、学校の教室や体育館で開かれるLFAの教室に参加する。

大学生

説明会・選考

「子どもの貧困」の現状や、LFAが行う学習支援について理解を深める。

事前研修（20時間）

子どもとのコミュニケーション方法を学ぶ。指導のロールプレイも実施。

LFAのプログラム

1 教師1人に対し、子ども1～3人の個別指導

個別カリキュラムに基づいた指導をうける。

2 毎回の達成度評価

内容を理解できているか、授業後の小テストで確認。

3 LFA独自の教材

苦手の一つずつクリアできるように設計された教材で学ぶ。

1 指導内容のフィードバック

LFAスタッフから、指導内容のフィードバックを個別に受ける。

2 中間・事後研修(30時間)

社会課題への理解や、課題解決力を高める。

3 仲間との高めあい

指導準備や振り返りを共にに行い、新たな気付きを得る。

参加後

自己肯定感向上

新たなロールモデルの獲得

学力向上

高校進学率100%。
事後テスト平均点10点以上アップ。

社会人基礎力の向上

課題解決力・リーダーシップなど。

社会課題への当事者意識の向上

子どもと向き合った現場での経験から得られる意識の向上。

将来の目標達成に向けて
自立した学習習慣を獲得。

卒業後、様々なセクターで活躍。
(大学院・民間企業・教員・官公庁 など)

LFAが育てる未来

受講生



中学3年生 Kさん

この活動に出会わなかったら、受験の第一志望は違う高校だった。先生たちがこんなに熱心にかかわってくれるのに、自分がんばらなくてどうするんだ！と思った。大学生になったら、LFAで教師をやりたい。

大学生教師



東京大学3年生
青山清美さん

私は決して豊かとは言えない、父子家庭の5人兄弟の末っ子として育ちました。その中で父は私に教育だけは惜しみなく受けさせてくれ、また兄弟からの無償の愛情が私に安心できる空間を作ってくれました。

教育の大切さを知っているからこそ、勉強を自由にできない環境にいる子どもには、私が教育の重要性を理解する大人として、勉強の楽しさを伝えたいです。それと同時に、安心できる空間が少ない子どもには、私自身が安心できる居場所になってあげたいとも思います。

そして「子どもが未来に希望を持って進んで行けるように支え続ける」ということを常に胸に抱きながら、現在はLFAで学生ボランティア教師として子どもに指導をするほか、他の教師たちをまとめる役割を務めています。



居場所支援事業

安心して過ごせる居場所として、
学童保育のような仕組みで子どもたちを受け入れ、
「落ち着いてみんなとの生活を楽しむ環境」
「自分のペースで学びを深める力」
「遊びと体験・世界を広げる人との出会い」
を提供することで、子どもたちの自立する力を養っています。

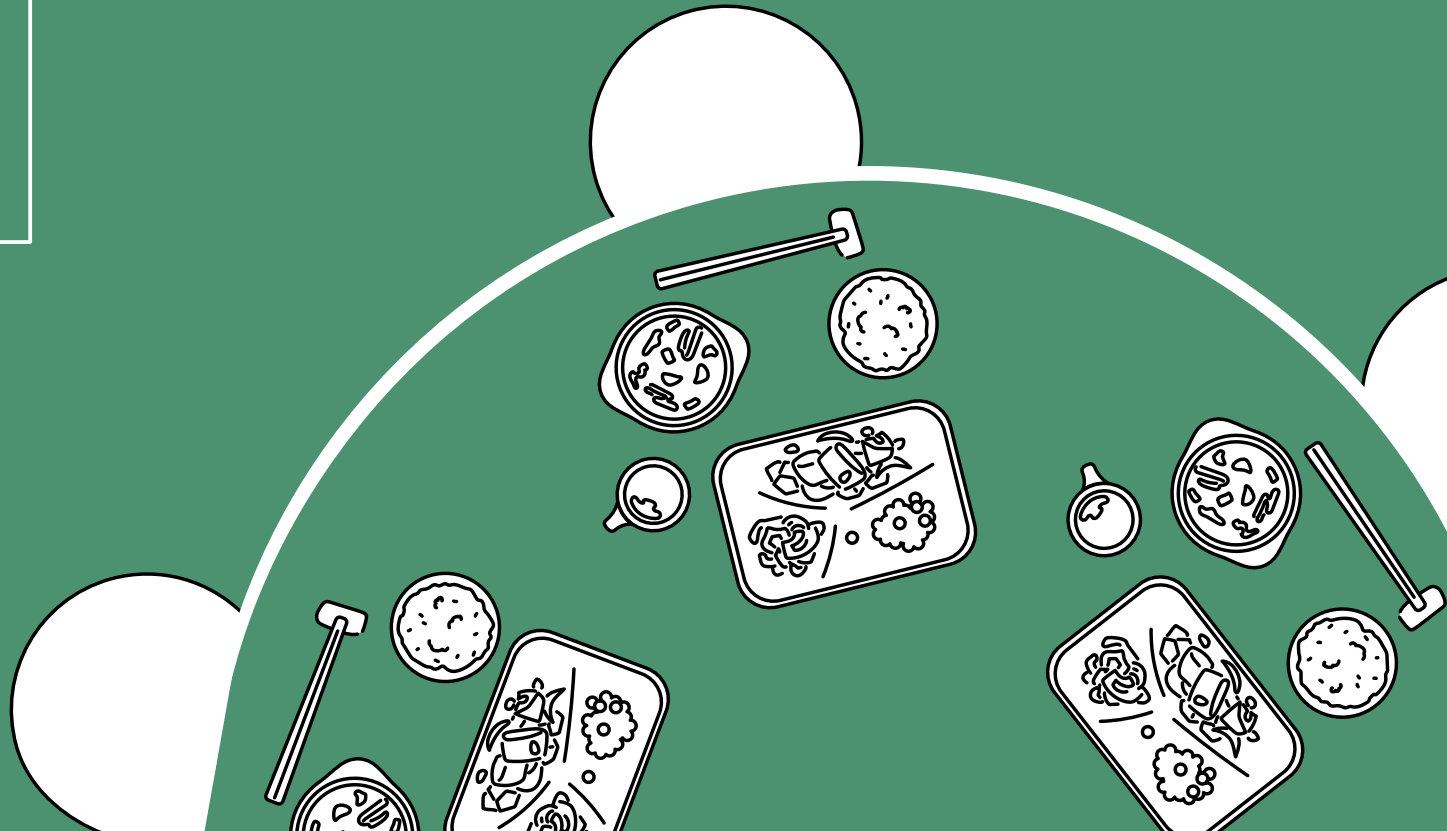
居場所支援事業概要

提供日数 | 平日週5回

提供時間 | 14時～20時

対象生徒 | 小1～高3

支援内容 | 生活指導・食事提供・遊び支援・学習支援



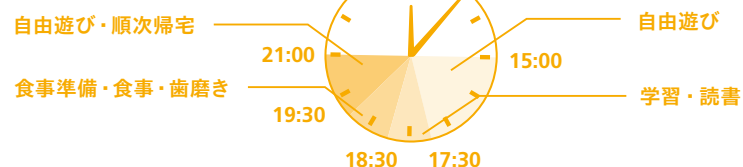
居場所支援事業とは

より低年齢のうちから、学習面だけでなく生活を含めた包括的な支援を。居場所支援は、様々な困難を抱える子どもたちにとって安心して過ごせる居場所です。

基礎的な生活習慣が身についていない子ども、複雑な家庭環境により人との接し方がわからない子ども、発達障害を抱える子どもなど、学習以前の問題を抱えている子どもたちには、安心して無理なく生活習慣や学習習慣を身につけられる居場所が必要です。

しかし、まだ日本にはそのような子どもたちを支援する制度や仕組みが整っていません。LFAの居場所支援では、そのような安心できる居場所の中で、個別の子どもの課題や強みにあわせた、また保護者や世帯の状況にあわせた個別の支援計画をたて、一人ひとりに寄り添った支援しています。

居場所支援でのある一日



子どもたちが得られるもの

落ち着いてみんなとの生活を楽しむ環境

スタッフや友達と一緒に過ごす中で、成長の基礎となる大切な生活習慣や社会性を一緒に育んでいきます。

自分のペースで学びを深める力

一人ひとりの「学びたい」という思いや、興味関心に応えられる環境を提供し、無理なく学習習慣や学習意欲を形成します。

遊びと体験・世界を広げる人との出会い

自由な遊びや実験、創作活動、ロールモデルとなる大学生や地域の人との関わりなど、多様な経験を提供します。

Learning for Allのこだわり

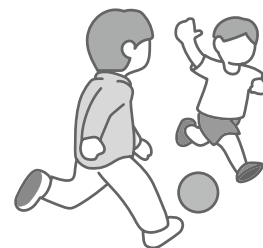
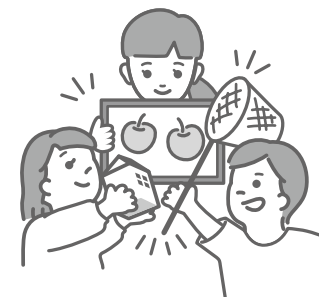


健やかに育つ基盤づくり

手洗い・うがいや歯磨きといった基礎的な生活習慣を身につける支援、宿題の見守りなどによる学習のサポート、栄養バランスの整った夕食の提供、最大21時までの預かりをしています。

一人ひとりの魅力が輝くサポート

それぞれの子どものある課題や特性にあわせて支援計画を作り、それぞれの強みを活かす支援を行っています。子どもたちの自己肯定感を高めるために、彼らが制作した作品の展示やプリントのファイリング、素敵なアクションを褒めるカードを送るなど、子どもたちの強みを可視化しています。

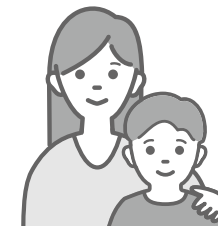


多様性を認め合える仲間づくり

専門性・経験豊富な常勤スタッフが、子どもたちの感情に寄り添い一緒に考えながら、様々な困難を抱える子どもたちがお互いの良さを認め合えるような働きかけをしています。

子どもと家庭をまるごとサポート

拠点に居る時間だけではなく、家庭に居る時間にも目を向けた支援を行っています。支援計画ではそれぞれの子どもが抱える背景にも踏み込み、生活全体の課題が解決されるように取り組んでいます。保護者との日々のコミュニケーションを通じて信頼関係を築き、家庭も含めた総合的なサポートをしています。



子どもたちの成長

LFAの居場所支援拠点に通っていた当時・小学校3年生の男の子Aくん。長いこと不登校で、3年生時点でひらがなを全て書くことが出来ませんでした。

「できないところを見られたくない」という気持ちから、宿題をしようと言うと逃げ回り、居場所拠点のスタッフへ暴言を投げかけることもありました。

そんな中でスタッフは居場所支援拠点がAくんにとって「安心できる場所」になるよう、根気強くAくんに向き合い、彼の胸の内の理解に努め、対話を続けました。さらに周りの子どもたちが、居場所拠点で宿題や勉強に真剣に取り組む姿を見て、少しずつAくんの気持ちが変わりはじめました。自分で勉強道具をカバンに入れて持参し、一生懸命勉強に向き合うようになったのです。

居場所支援を卒業し、現在は小学校4年生のAくん。ひらがなも全部読めるようになっただけでなく、「僕、たくさん勉強して、ひらがなも足し算引き算も全部できるようになる！」「将来は警察官になる！」とたくさんの「出来るようになっていたいこと」や「なりたいもの」をAくんの口から語ってくれるようになりました。

切れ目のない支援を

小学生から高校生までを支援

これまで居場所支援は小学生を対象としてきましたが、新たに中高生を対象とした拠点を開設。関わることでできる年齢を広げることで、地域の中で子どもの成長を支え続ける体制を整備しています。

地域とのつながりを強化

公園で地域の子とも遊んだり、支援拠点で誰でも参加できる子ども食堂を定期的で開催したり、近くのお祭りや運動会に積極的に参加したりなど、地域の方々と様々な方法で交流をし、つながりを深めています。



ナレッジ展開事業

全国で同じように「子どもの貧困」という課題に取り組む
団体や企業に向けて、LFA が実際に支援現場で使用している教材や、
「子ども支援」に関する研修動画を提供しています。



ナレッジ展開事業とは

LFAが学習支援や居場所支援で子どもたちと向き合う中で蓄積してきた知識や経験を、全国のように「子どもの貧困」の解決に取り組む団体や企業にご提供しています。

「LFA e-learning」「テスト・教材」「集合研修」の3つのサービスを提供しており、既に全国の約20の団体や自治体へナレッジを展開しています。

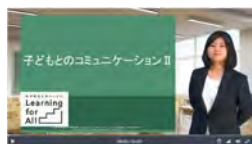
無料で研修動画などを一部ご覧いただけます。
詳しくはLFA公式サイトをご覧くださいませ。



1. LFA e-learning

LFAのスタッフやボランティアが子どもたちと向き合う前に受講するLFA独自の研修を動画でご覧いただけます。

目的別に分けた6つのカテゴリ、13のコース、約60本の動画から構成されています。(2020年8月時点)



カテゴリ	コース
はじめに	LFA e-learningを始めるにあたって、最初にご覧いただくコース
学習支援	01. コミュニケーション 02. 指導方法 03. 教室運営
居場所支援	01. 対人支援職の仕事法 02. 子どもの支援現場で役立つ知識
スキルアップ	01. 思考法 02. 仕事術
ソーシャルワーク	ソーシャルワークの概論・プロセスを学ぶ
子どもの貧困理解	01. 理論から学ぶ貧困とその対策 02. 多様なケースから学ぶ子どもの貧困

2. テスト・教材

市販の教材では対応が難しいお子さん向けに、LFAオリジナルのモジュールステップ教材を提供します。

子どもの苦手項目を把握するために指導開始前に行うテストや、教材などがご提供可能です。

ご提供可能ツール



テスト

納品形式 | データ
対象学年 | 中1～中3
対象教科 | 数学・英語
内容 | 学年×学期の既習基礎事項



カリキュラム表

納品形式 | データ
対象学年 | 中1～中3
対象教科 | 数学・英語
内容 | テストに連動したカリキュラム表



アンケート

納品形式 | データ
内容 | 子どもの一次情報を把握するためのアンケート



教材

納品形式 | データ
対象学年 | 中1～中3
対象教科 | 数学・英語
内容 | 市販教材よりもモジュールステップにブレイクダウンしたLFAオリジナルの基礎学力教材

3. 集合研修

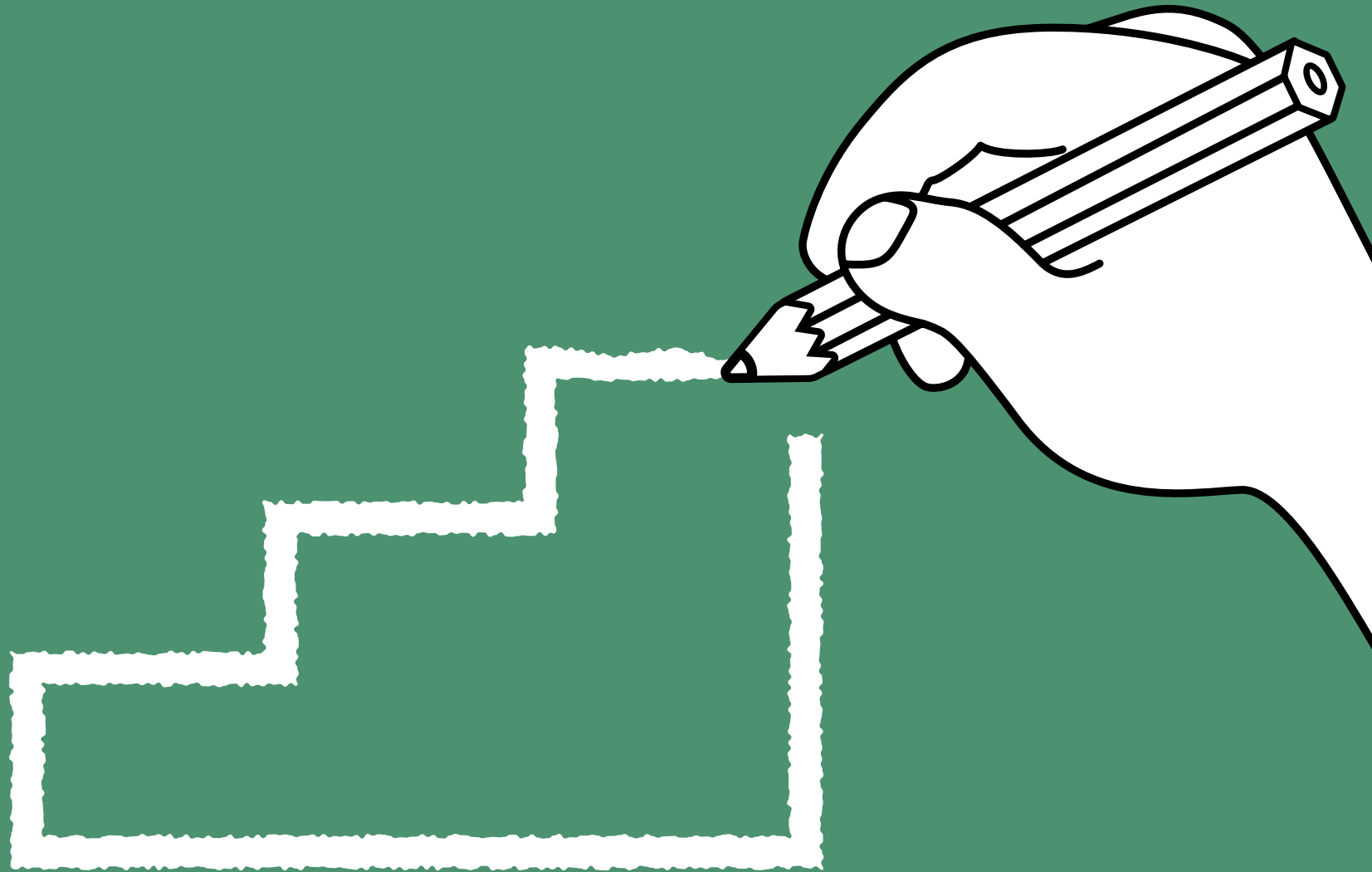
子どもとのコミュニケーション方法から組織運営まで、各団体のニーズに合わせて研修を提供します。

【研修項目実例】

ボランティア採用戦略、子どもへの問いかけ中心の指導実践、指導後の振り返り・改善方法、など



団体紹介



代表インタビュー



リひょんしぎ
李炯植

特定非営利活動法人 Learning for All 代表理事。1990年、兵庫県生まれ。東京大学教育学部卒業。東京大学大学院修士課程修了。2014年に特定非営利活動法人 Learning for All を設立、同法人代表理事に就任。これまでにのべ8,000人以上の困難を抱えた子どもへの無償の学習支援や居場所支援を行っている。全国子どもの貧困・教育支援団体協議会理事。2018年「Forbes JAPAN 30 under 30」に選出。

すべての子どもたちが
学びと自立を保証されるように。
私たち LFA と共に “課題の当事者” として
「子どもの貧困」の解決を目指しましょう。

Q. 設立経緯を教えてください

私自身、生活困窮世帯が多い地域に生まれ育ち「格差」や「貧困」を目のあたりにして生きてきました。登下校中に路上生活者の方が凍死して運ばれるのを目にすることもありましたし、複雑な家庭環境で育つ友人や、経済的な要因で希望する進路が叶わず、夢を諦めないといけない同級生も多くいました。「可能性があるにも関わらず、生まれた地域や家庭環境で人生が制限されている人がいる」ということを、幼い頃から強く実感してきました。

その後、大学では、地元とは正反対の世界を目にすることになりました。私の通っていた東京大学には、世帯所得も文化資本にも持ち合わせた人が多

く、日本にも「階層」があることを知ったんです。課題の現場をリアルに知る自分だからこそ「子どもの貧困」という社会課題の解決に取り組むべきだと思い、Learning for All の活動を始めました。

Q. これまでどのように活動を広げましたか？

一番初めに取り組んだ学習支援では、学校での勉強につまずきを抱えた子どもたちを対象に、自身のつまずきや得意・不得意、それぞれの学習スタイルに合った効果的な学習機会を無償で提供することで、学校での試験の点数向上と、希望する高校への進学を実現し、子どもたちが変わるきっかけを提供し

てきました。

数多くの子どもの「成功体験」作りに寄与してきた一方で、より低学年からの支援が必要な子どもたちの存在に気づき、2016年からは「居場所支援」を行う拠点をオープンしました。居場所支援の拠点では、様々な事情から学校や家庭で安心して育つことができない子どもたちに対して、他の子どもとめいいっぱい遊んだり、栄養バランスのとれた温かいごはんを食べたり、歯を磨いたりするような、彼らが将来必要とされる“当たり前”のことに安心して取り組める環境を提供してきました。

そして居場所支援を行うようになって改めて、子どもたちが抱えている問題は決して経済的貧困だけではなく、「つながり」「学びの環境」「育まれる環境」の喪失が複雑に絡み合う中で、子どもたちが将来自立するための成長機会を失っていることだと確信しました。そこで私たちは現在、1人の子どもが生まれてから自立していくまでの1つの生活圏に、すべての支援・機会がそろい、困難を抱えた子どもたちへの包括的支援モデルの構築に着手しています。

Q. LFAの教室に通う子どもたちについて教えてください

勉強したくても家庭の経済的な理由で塾に通えなかったり、大きな学習遅延を抱えて進学が危ぶまれる子ども。過去のDVやネグレクトなどにより、精神的な困難を抱えている子どもなど、問題は様々です。

しかし、どんな困難を抱えた子どもたちにも必ず可能性が備わっていると、私たちは信じています。自分の将来を前向きに考えられなかった子どもたちが、私たちの支援で少しずつ前向きに

変わっていく姿を見ると、改めてこの支援の必要性を感じます。

Q. 大学生へメッセージをお願いします

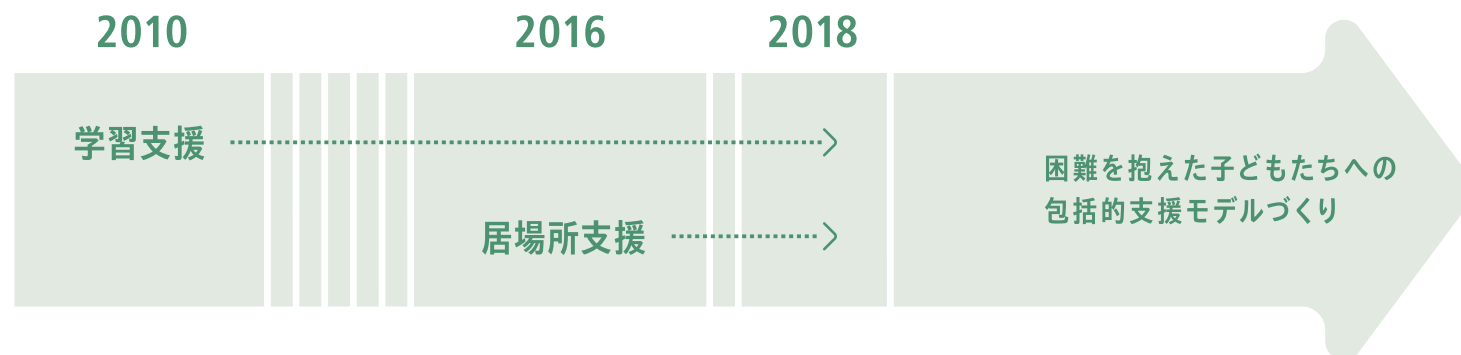
LFAでの経験は、自分を見つめ直し改めて学び直す機会になります。また徹底的に研修を行うので、課題解決力や状況把握能力など、社会人に求められる基本的なスキルも身に付きます。子どもや教育に興味がある方にも是非、来ていただきたいです。「知る」事と「実際に経験する」という事は違います。LFAに参加すれば嘘のない、課題と向き合う本当の現場を経験できます。

Q. 寄付者の方へのメッセージをお願いします

現在ご寄付をいただいている皆さま、本当にありがとうございます。皆さまのご支援のおかげで、LFAは日々の活動が続けることができます。今後とも変わらぬご支援をいただけますと幸いです。

これからご寄付を検討いただける皆さま、皆さまの継続的な支援が、子どもたちの学習機会の拡大につながります。私たちと一緒に「子どもの貧困」という課題に取り組む仲間になっていただけますと幸いです。

これまでの歩み



理事紹介



代表理事
李 炯植

- 東京大学教育学部卒業
- NPO 法人 Learning for All 創設者
- 「全国子どもの貧困・教育支援団体協議会」幹事



理事
熊平美香

- 昭和女子大学キャリアカレッジ学院長
- ハーバード経営大学院経営学修士課程修了



理事
松田悠介

- 認定NPO法人Teach For Japan 創設者
- ハーバード大学教育大学院卒業
- 京都大学大学院特任准教授



理事
大越一樹

- ベイ・アンド・カンパニー・ジャパン パートナー
- フランスHEC 経営大学院経営学修士課程修了



監事
渡辺伸行

- TMI 総合法律事務所 パートナー
- 早稲田大学法学部卒業
- ニューヨーク大学ロースクール卒業



子ども支援事業部
緑川大二郎



子ども支援事業部
竹田ゆきえ



経営管理部
池田隼人



コミュニティ推進事業部
吉山泰子



子ども支援事業部
吉原聡子



子ども支援事業部
中城隼人



子ども支援事業部
井上優未



経営管理部
長島和奏



子ども支援事業部
今野千識



子ども支援事業部
新江れいら

スタッフ紹介



コミュニティ推進事業部 事業部長
石神駿一



子ども支援事業部 事業部長
入澤 充



子ども支援事業部 マネージャー
佐藤麻理子



経営企画事業部 マネージャー
楠 正子



子ども支援事業部 マネージャー
多田理紗



子ども支援事業部
木村 駿



子ども支援事業部
福田 良



子ども支援事業部
春川美桜



経営企画部
平地清乃



子ども支援事業部
片岡優衣



経営管理部 マネージャー
辻 珠美



子ども支援事業部
菅 美和子



子ども支援事業部
岸本尚子



子ども支援事業部
濱田祐子



経営企画事業部
藤井藍子



子ども支援事業部
池田流輝



子ども支援事業部
宇地原栄斗



子ども支援事業部
浅野乃徳



コミュニティ推進事業部
鬼澤秀昌

沿革

- '10年6月 認定NPO法人Teach For Japan内の一事業として学習支援事業を開始。
- '11年6月 東京都北区における学習支援事業が「北区改革プランベスト1」を受賞。
- '14年7月 NPO法人 Learning for All を設立。
- '16年11月 日本財団の子どもの貧困対策プロジェクトにおいて第1号拠点を埼玉県戸田市で展開。
- '18年1月 第5回エクセレントNPO大賞および課題解決力賞を受賞。
- 8月 李代表がForbes「30 UNDER 30 JAPAN 2018」に選出。
- '19年6月 中高生向けの居場所支援を開設。
- 8月 茨城県つくば市にて学習支援を開始。
- '20年3月 立ち上げからのべ8000名の子どもに支援を提供。



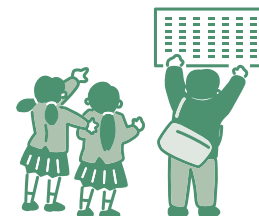
サポーター企業・団体さま



2019年度活動報告

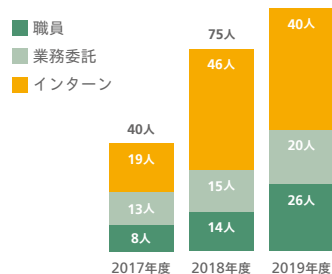
届けた支援のインパクト

- 支援した子どものべ1,036名
- 参加した大学生のべ637名



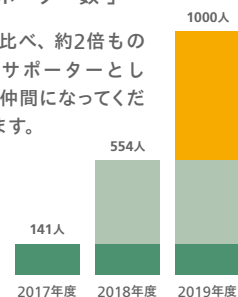
団体としての成長

〔従業員数推移〕



〔個人サポーター数〕

昨年度に比べ、約2倍もの方が個人サポーターとしてLFAの仲間になってくださっています。



2019年度メディア掲載実績

- 「NewsPicks」にて7月8日より代表 李のインタビューが5日連続掲載
- 朝日新聞 10月2日付朝刊にて「万引き家族」は枝監督と李の対談が掲載
- 読売新聞1月7日付朝刊にて 2020年新春特別面「平成時代の夢」にて李のインタビューが掲載

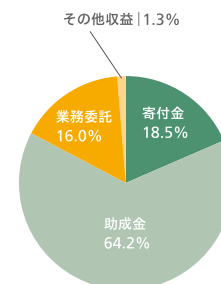
上記は掲載の一部となります。



こちらから2019年度の掲載メディアを全てご覧いただけます

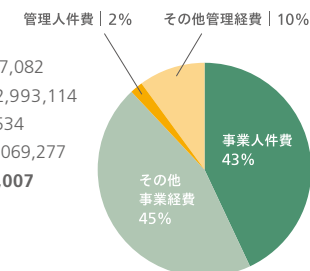
〔収入内訳〕

寄付金 | 57,657,276
助成金 | 200,161,827
業務委託 | 50,051,870
その他収益 | 3,976,371
経常収益計 | 311,847,344



〔支出内訳〕

事業人件費 | 115,947,082
その他事業経費 | 122,993,114
管理人件費 | 4,604,534
その他管理経費 | 26,069,277
経常費用計 | 269,614,007



私たちにできることはなんですか？

「子どもの貧困を本質的に解決する」仲間になりませんか。

「子どもの貧困」という社会課題は、これからの日本社会に関わる非常に大きな問題です。しかし、この課題に対する理解や取り組みは、まだ十分に進んでいないのが現状です。この課題を解決するためには、皆さま一人ひとりの力が必要です。皆さまに合った方法で、私たちの仲間になっていただけませんか？ご支援をいただける方法としては、以下の3つがあります。

- ① LFAの記事を読む・シェアする
- ② LFAのイベントに参加する
- ③ LFAサポーターとして寄付をする

【① LFAの記事を読む・シェアする】

Twitter/Facebookで、子どもの貧困や教育格差に関するコラム・LFAの活動レポート等を配信しています。



【② LFAのイベントに参加する】

LFAは月に数回、活動説明会を開催しています。子どもの貧困という社会課題への理解を深め、解決の方法を共に考えるイベントです。

イベントに参加するには？

公式のWEBサイトや各種SNSでイベント情報をお知らせしています。イベント参加フォームより必要事項を記入し、是非ご参加ください。会社のグループやご友人など複数での参加も歓迎します。



【③ LFAサポーターとして寄付をする】

寄付の方法には、以下の2つがあります。

1. WEBサイトから寄付をする

右記WEBサイトから寄付を受 <https://learningforall.or.jp/support/> け付けています。

「LFA 寄付」でも検索可能です。

LFA 寄付

検索



《LFAサポーター》

継続的なご支援の場合、クレジットカードによるご寄付が便利です。お手続きは約2分ほどで完了し、いつでも寄付の停止は可能です。

1,000円/月 3,000円/月 5,000円/月 10,000円/月

《ワンポイントサポーター》

1回ごとのご支援も可能です。詳細はWEBサイトをご確認ください。

《サポーター特典》

サポーター限定のオンライン/オフラインイベントの招待、活動報告メールなど

2. 銀行振り込みで寄付をする

下記の口座までお振込みください。

振込先情報

【銀行名】三菱UFJ銀行 【支店名】新宿支店 【種類】普通 【口座番号】0577222
【名義人】特定非営利活動法人 Learning for All
カナ：トクヒ）ラーニングフォーオール



皆さまからの
あたたかいご支援・ご協力を、
心よりお願い申し上げます。

